



2014年4月5日掲載

静岡イチゴ紀行／新東名編

春分の日の3連休を利用して、静岡に行ってきた。2か月前は一人旅の1泊2日だったが、今回は家族連れの日帰りである。

目的はイチゴ狩り。そして、新東名高速道路を通ってみたかったのだ。

朝6時50分に出発。我がグレカリブに給油し、環八で東名高速東京ICへ向かう。

ところが、この段階ですでに渋滞。東京ICに着いたのは、ちょうど8時だった。

交通情報では、大和トンネルを先頭に東名川崎ICまで20kmの渋滞だという。多摩川を渡り神奈川県に入り、東京料金所を過ぎたら渋滞にハマった。

途中、港北PAでトイレ休憩。幼子を連れていていると、細かく休憩をとる必要があるのだ。

港北PAを出発し、渋滞の先頭となる大和トンネルを通過。この付近は緩い上り坂になっているため、気づかないうちに速度が低下してしまうのが渋滞の原因らしい。

ここを過ぎれば、至って順調である。進行方向に富士山が見え隠れしつつ、静岡県に入る。

御殿場ICを通過すると、新東名との分岐である御殿場JCTが出現。開通してから約2年、初めて通る新東名は、話には聞いていた通りカーブや勾配が少なく非常に走りやすい。

最高速度120km/hに対応した設計らしいが、現状の法定速度は100km/h。警察が頑として120km/hを認めないようだ。

時刻は11時、駿河湾沼津SAで早めの昼食を取ることにした。11時までに静岡市内に入れば先にイチゴ狩り、間に合わなければ駿河湾沼津SAに寄ることになっていたのだ。

ここもそうだが、3連休だけあってどこのSAやPAには駐車場の誘導員がいた。誘導員のおかげで、駐車場待ちの渋滞も減るようだ。

駿河湾沼津SAは、公園のような雰囲気。遊具やドッグランもあり、我が息子たちを放牧する。

また、名前のように駿河湾も一望。伊豆半島から御前崎までが見渡せるのだ。

ここのフードコートで昼食。私はかき揚げそばを注文した。



桜エビ
をふんだ
んに混ぜ
込んだ揚
げたての
かき揚げ
が、実に
うまい。
そばも進
むのであ
る。

12時と
なり、駿河湾沼津SAをあとにする。新清水JCTから清水
連絡路を通り、清水JCTで東名高速に入る。

清水ICでは、左側に羽衣伝説の絵が描かれた給水タン
クが現れる。これを見ると、「車で静岡に来た」という実
感が湧くのだ。

静岡ICで東名を降り、国道150号線へ。一路、石垣イチ
ゴを目指す。

その模様は[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2014年4月12日掲載

静岡イチゴ紀行／イチゴ狩り編

今月は「静岡イチゴ紀行」と題してお送りしている「ふくちゃんの“つれづれWEB”」だが、今回は2回目である。前回は[こちら](#)をご覧ください。

東名静岡ICから国道150号線に入った我々は、海沿いの久能イチゴ狩りスポットを目指す。「いちご海岸通りへようこそ」の看板が見えたら、約2kmに渡ってイチゴ農園が連なっている。

さて、どこの農園にしようか？ どこの農園もイチゴ娘がお出迎えをしているが、赤のジャンパーで風船のイチゴをブンブン振り回していた農園に入ることにした。

どこの農園も、国道沿いは駐車場だけで、実際にイチゴ狩りをするビニールハウスは道2本裏に入った斜面に設けられている。我々も、そこに誘導された。

ハウスに中に入ると、イチゴの甘いにおいが立ちこめている。いよいよ、2008年の「[駿遠紀行](#)」以来となる待望のイチゴ狩りである。



下の息子は、どういうわけかまだ色づいていないイチゴを取ろうとするのだ。なので、親がしっかり色づいたイチゴをもいで渡すのである。

この日は風が強く、しかも冷たかったので、ハウスの中は暖かい。そして、イチゴが甘くコンデンスミルクがいらないくらい美味である。

上の息子は6年前のイチゴ狩りの際、イチゴを食べ過ぎて「もう食べられない」という表情の写真が残っている。今回も、「成長」した「もう食べられない」の表情を写真に納めた。

30分も一心不乱にイチゴを食べていると、さすがに大

人も「もう食べられない」。イチゴ狩りを終え農園に戻ると、お餅が振る舞われた。

これにありついたのは上の息子。イチゴは「もう食べられない」ものの、お餅は別腹らしい。

一方、下の息子は農園の子供と仲良くおもちゃで遊んでいた。大人2人はお茶をいただく。

そして、帰り際にネギまで持たせてもらって、もう至れり尽くせり。大満足で農園をあとにする。

[[トップページ](#)]

以後、[こちら](#)に続く。

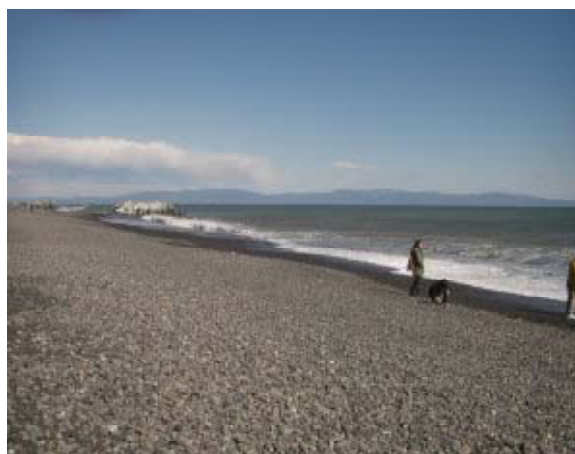


2014年4月19日掲載

静岡イチゴ紀行／静岡市内編

今回は「静岡イチゴ紀行」の3回目である。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれをご覧ください。

イチゴ狩りを堪能した我々は、国道150号線を静岡市内方向へ。途中の大浜海岸で休憩する。



子供たちを海岸で放牧することにした。波打ち際まで行き、波が来ると逃げる遊びをする。

上の息子は、ズボンの裾が濡れてしまった。一方、下の息子は「にゃおー(逃げろ)」と言いながら波をよけていたのである。

ほかにも、2人とも海に向かって石を投げたりしていた。特に、下の息子は常に両手に石を2個ずつ握りしめていたのである。

海岸での放牧を終え、2か月前に静岡在住の友人と訪れた安倍川餅屋に向かう。安倍川橋のたもとに並ぶ3軒のうちの1軒である。

だがしかし、この日は休業。残念ながら、本場のできたて安倍川餅を食べることができなかったのだ。

失意の中、車は静岡駅前から駿府城跡の駿府公園へ。中には入らず、濠の周りを通るだけである。

再び国道150号線に出て、今度は清水方向へ進む。15時を過ぎたこともあって、呼び込みのイチゴ娘も少なくなっていた。

久能山の麓、東照宮の入口を過ぎ、次に目指すのは日本平である。日本平は静岡側の日本平パークウェイ、清水側の清水日本平パークウェイ2か所から行くことができるが、今回は清水側から攻めることにした。

かつてはどちらも有料道路だったが、今では無料化されている。山道を登っていくと、日本平に到着した。

この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2014年4月26日掲載

静岡イチゴ紀行／清水編

今月の「ふくちゃんの“つれづれWEB”」は「静岡イチゴ紀行」をお送りしているが、今回は最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれからどうぞ。

清水側の清水日本平パークウェイから登った我々は、日本平の頂上に到着。ここから、富士山の眺望が楽しめる。



昼寝中の上の息子は、下車せずにそのまま昼寝続行。嫁さんと下の息子と3人だけで降り立つことにしたのである。

ここでは、おみやげの調達をもくろんでいた。しかし、お目当てがなかったのだ。

お目当てとは、静岡名物黒はんぺん。嫁さんは嫌いらしいが、フライにしたり酒のつまみにしたりするとうまいのである。

残念ながら、黒はんぺんが置いていなかった。なので、別の場所での購入となる。

再び清水日本平パークウェイを通り、清水側に下る。夕方となり、おみやげと夕食をどうしようか思案し始める時間である。

高速のSAでの調達を考えていたそのとき、清水港の近くで「駿河みやげ横丁」という垂れ幕の建物を発見。それにひかれて立ち寄ってみることにした。

この建物はエスパルスドリームプラザで、廃線となった清水港線清水港駅跡地に建てられた複合施設である。駐車場の入り方がよくわからず右往左往したが、満車だったにもかかわらず2～3分の待ちで入ることができた。

早速、駿河みやげ横丁へ。ここなら、所望の土産が見つかるはずである。

案の定、黒はんぺんも置いてあった。生鮮海産物はもちろん、各種お菓子に至るまで、おみやげの調達がここで完結するのだ。

このほか、飲食店もいろいろあり、和食から洋食まで一通りそろっている。なので、夕食もここで取ることにした。

テイクアウトのにぎり寿司が、タイムサービスで2割引。即、これに決めたのは言うまでもない。

上の息子は、1000円以上のレシートを見せると無料になるクレーンゲームを希望。なので、3階のゲームセンターに向かう。

レシートが3枚あるので、3回分が無料に。でも、残念ながら景品をゲットすることができなかった。

1階のフードコートに戻り、にぎり寿司を食する。さすがに海のそばだけあって、近所の持ち帰り寿司と比べものにならないほどの美味である。

外はすっかり暗くなり、おみやげ調達だけの目的が夕飯までも食べてしまった。19時過ぎまで2時間も長居していたのである。

清水ICから東名高速、清水連絡路に進み、新東名へ。例によって、東名上りが大和トンネルを先頭に秦野中井まで渋滞しているというので、行きにも寄った駿河湾沼津SAに再び立ち寄る。

ここではトイレ休憩だけのつもりだったが、嫁さんが野菜を購入。その間、下の息子は熟睡していた。

20時に駿河湾沼津SAを出発。東名に合流して、静岡県を離れる。

懸念されていた渋滞も、表示では13kmとなっていたが、実測では7kmほど。大したことはなかった。

自宅には22時過ぎに到着。これにて「静岡イチゴ紀行」が完結したのである。

[\[トップページ\]](#)